

2015年

春の課題作文 優秀作品 【小学部】

金賞 ふれあいの丘校 小6 N・Mさん（荏田南小）

私は文章Bの意見に賛成だ。日本では、決まっているわけでもないのにエスカレーターで片側によって乗る人がほとんどだ。これは、急いでいる人たちのためだ。だが、もう一度考えよう。まず、エスカレーターでは安全のため、歩いてはいけないことになっているはず。エスカレーターで歩くのはりっぱなルール違反なのである。片側によるのは「どうぞルールを破ってください」と言っているようなものなのだ。

また、「急いでいる人もいるから」とあるが、私は急いでいるなら階段を使えば良いと思う。階段なら走っても誰も文句は言わないし、めいわくもかけない。なのに、なぜわざわざエスカレーターを使わなければならないのか。エスカレーターと階段なら、さほど変わらないのに。そもそも、なぜ急いでいる人はエスカレーターを使うのか。人がたくさんいる事がわかっているのに。ほかに、大荷物を持っている人などもそうだ。それこそ、荷物が他の人にあたってしまうのが分かっていてエスカレーターに乗るのか。エレベーターは、そのためにあるというのに。私にはとても理解できない。片側によらない人より、よく考えないでエスカレーターに乗りけがをさせてしまう人の方が、よほどマナーを守れていないと思うのだ。

だが、エスカレーターで片側によるのは日本人の優しさだと思う。テレビなどに出る外国人の観光客は、とてもおどろいていた。私も、ルールや決まりがあるわけではないのに、自然と片側によっている日本人を見て感心する。一人も右側に乗っている人がいないからだ。その優しさを、声かけに変えることができればいいな、と思った。気分を害さないように、やさしく「エスカレーターで歩くのは危ないですよ」と。

いつかそんな時代が来ますように。

金賞 十日市場校 小6 S・Dくん（十日市場小）

私は文章Aの意見に賛成です。この世の中には、きちんとルールを守る人、あまりルールを守ろうとは思わない人がいます。どちらもそれぞれに色々な意見や考え方があると思いますが、私はルールを守らない人は、ルールを守っている人に対して迷惑をかけていると考えます。他人に迷惑をかけずに安心して暮らしていくためには、多少不便だったり、めんどうだったりと思っても、社会のマナーやルールに従って行動していく必要があるからです。

私は今年、小学校の登校班で班長をしています。毎朝近所の一年生から六年生が集合場所に集まり、班長が先頭に立って、学校まで安全に登校することが目的です。そして、登校班には、マナーやルールがいくつもあります。集合場所を守る。まっすぐ二列に並んで歩く。集合場所や登校中は大きな声で話したり騒いだりしない。あぶないので持っている傘で遊ばない。など、一人ひとりが他人に迷惑をかけないように心がけておけば、どのルールもそんなにむずかしいことはありません。しかし実際は、平気で集合時間に遅れてくる人、列をくずして歩く人、ふざけたり話しながら歩く人など、問題はたくさんあります。しかし、このように実際にできていないからこそ守ってもらえるように、マナーやルールがあるのではないのでしょうか。マナーやルールを守らない人がいると、きちんと守って行動している人にとってはとても迷惑であり、時にはイライラしたり、不快な気分になったりします。しかし、一人ひとりがルールを守って行動できた時は気分も良く、物事がスムーズにいくと思います。

やはり社会や集団の中で、みんなが安心して気持ち良く暮らしていくためには、マナーやルールが必要であり、それを守る責任や義務があると考えます。このような理由で、私は文章Aの意見に賛成です。

特別賞 鶴川校 小4 K・Kさん(三輪小)

わたしは文章Bの意見にさん成します。わたしは、いつもエスカレーターに乗る時、どうして左がわによらないといけないのか、とおこっています。Bの文章みたいに、右がわの人の荷物が左がわの人に当たったり、事が起きたりするので、かたがわ追いこし方式はきらいです。だから、わたしは右がわに立って道をふさぎたい気持ちです。急いでいる人は、階段んを使って行けばいいと思います。

Aの文章で、なつとくいかないと思うところは、かたがわ追いこし方式は使いやすいと書かれているところです。なぜ、これがなつとくいかないかというと、かたがわ追いこし方式は荷物が人にぶつかったり、事が起きていたりするそうだから、なつとくいきません。次に、Aの文章でなつとくがいと思うところは、日本でもかたがわ追いこし方式が定着してきているところなんです。なぜ、なつとくがいとかいうと、わたしが駅やお店で、かたがわ追いこし方式をやっているところを見たことがあるからです。

Bの文章でなつとくがいと思うところは二つあります。一つ目は、エスカレーターははばがせまいから事が起きるとのことです。なぜ、なつとくがいとかいうと、急いでいる右がわの人が追いぬく時に、急がない左がわの人に荷物が当たったり、追いぬく時にぶつかって落ちたりしてあぶないからです。二つ目は、急がない人がしかたなく左がわによるようになったことが、かたがわ追いこし方式が定着した原因なのかなと思うところです。この二つのところがなつとくできます。

わたしは、追いこせないように右がわに立って、道をふさぎたい気持ちだけだけど、かたがわ追いこし方式が定着してしまったので、これからはかたがわ追いこし方式を守らなければいけないのかなと思います。

春の課題作文 優秀作品 【中学部】

金賞 十日市場校 中1 H・Nさん(十日市場中)

私は、「文章B」の意見に賛成だ。急いでいる人のために片側を空けるといふ、いつの間にか定着した片側追い越し方式。実は、一見このマナーが一番正しいと思われがちだが、「歩行禁止」が最新のルールだということをご存知だろうか。

文章Bに書いてあるように、エスカレーターの幅にはそれほど余裕もなく、片側から歩いてきた人がとなりをすり抜ける際に、荷物や体などが接触して思わぬ怪我や転倒事故を引き起こす恐れがある。更に、エスカレーターは勾配三十度と、公共の階段よりも急なうえに、ステップの高さや奥行も大きいのでつまずきやすい。エスカレーターは、元々は「一つのステップに乗れるのを二人までとし、利用者が必ず手すりに掴まれる構造にする」とエレベーター協会が公表しており、追い越しを想定している物ではない。これらの理由で、片側追い越し方式は危ないから私は反対だ。

しかし、これほどの危険があるというのに、東京などの大都市の主要な駅などで「歩行禁止」を守っている場面はまったく見当たらない。いくら急ぎたいからとはいえ、事故などをおこしてしまったりは、まったくもって意味はないと思う。だけれど、路線などでエスカレーター等の混雑状況が異なってしまううえに、駅によってはエスカレーター、エレベーター、階段を増設することが難しいという現実がある。「歩行禁止」にしてしまえば、ホームの混雑は迅速に解消できず、状況によっては逆に事故を起こしかねない。

色々な危険もあるのだが、「なぜそれを今更改めなければいけないのか」など歩行禁止を巡っては、反対論も少なくない。時間をかけて慣れ親しんだマナーを変えるには、啓発活動だけではなく、混雑緩和のためのインフラ整備などもしくはないか。社会全体が多角的に取り組まなければ、この問題は簡単には解決しないと思う。

金賞 中山校 中1 S・Yくん(中山中)

僕はAの意見に賛成です。エスカレーターの片側追い越し方式はあったほうが良いと思います。なぜなら、急いでいるときは、少しでも時間を短縮したいと思うし、そうでないときは落ち着いて乗っていたいからです。ぼくの身近には、他にも合理的な方法がたくさんあります。タバコを吸う人・吸わない人のための分煙、降りる人が優先の電車の乗り降り、上る人・下りる人を左右で分けている駅の階段などです。それらの方式は双方の安全と利益のために生み出された人間のすばらしい知恵とも言えます。

にもかかわらず、先日ぼくは、とても怖い体験をしました。妹の手を引きエスカレーターに乗り、いつものように左側に立ちました。そのとき、右側をものすごいスピードで下りてくる人や、他人にバッグをぶつけながら走っていく人を何人も見かけ、とつさに妹の手を強く握りました。

「急いでいない人は左側に寄る」というマナーが定着している反面、追い越す側の人のマナーはどうでしょうか。右側を空けてもらうことを当然のように感じ、「自分さえ良ければ」と思っているのではないのでしょうか。本来マナーというのは、自分やみんなが不快な思いをしないための立ち振るまいのことです。追い越す側もマナーを守ることが必要です。それにより、だれもが快適にエスカレーターを利用することができ、結果として、事故やトラブルを未然に防ぐことができると思います。

身近にある合理的な方式はぼくたちの安全や利益のためにあります。しかし、それらの合理的な方式は、それを円滑に行うための「マナー」の上に成り立っていることを忘れてはならないと思います。